

会 議 録

会議の名称	第7回三田市協働のまちづくり推進委員会
開催の日時	令和7年9月30日（火）18時00分～20時00分
開催の場所	三田市役所本庁舎3階302A会議室
出席した委員の氏名	清水委員長、澤田副委員長、 藤本委員、大東委員、益田委員、岡田委員、松田委員
欠席した委員の氏名	なし
出席した庶務職員の職及び氏名	横溝市民生活部長、榎本市民生活部次長、小野地域づくり推進課長、 榎井地域づくり推進課副課長、足立地域づくり推進課職員
その他出席者	なし
傍聴者の人数	0人
議題	1 協働のまちづくり基本指針の改定について (1) 審議日程について (2) 三田市協働のまちづくり基本指針（改定素案）について (3) 意見交換 2 その他 (1) 次回の日程について
会議の概要	三田市協働のまちづくり基本指針（改定素案）について、事務局から説明、意見交換を行った。
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	次第 ・資料1 審議日程について(案) ・資料2 三田市協働のまちづくり基本指針（改定素案）について ・参考資料 三田市協働のまちづくり基本指針の構成（改定素案） 委員名簿 配席表

1 開会

<事務局の司会により開会>

2 協議・報告事項について

<事務局より会議の成立を確認>

3 諮問にかかる議事

委員長により進行。

(1) 審議日程について

委員： 了。

(2) 三田市協働のまちづくり基本指針（改定素案）について

事務局： 三田市協働のまちづくり基本指針（改定素案）について説明。【資料2】

委員： P2の部分で「策定」は「改定」の誤りでは。

事務局： 修正する。

副委員長： 「である」と「です、ます」という書き方が混在しているが、書きぶりは全体で調整するのか。今回の委員会では全体の方針を整理すればよいのか。

事務局： 細部に関しては詰められていない。書き方に関しては事務局で精査させていただく。

副委員長： P12 (1) 自治区・自治会の「80%以上の自治会数」とは加入率のことか。80%が何を示しているかわかりにくい。加入率という言葉が何度も出てくるため書かない方がよいと判断したのかもしれないが、そこは明記しておいた方がよい。

P15の表の読み方がわからない。どう読めばよいか。

事務局： 市民センターは元より社会教育や生涯活動、市民活動の拠点であり、グループ登録制度がある。一定の条件を満たせば登録グループに認定され、貸室を借りる際に減免などの措置を受けることができる。各センターの登録グループの数と、その活動内容を分野ごとに表している。1つの団体が複数のセンターに登録していることもあるため、重複している可能性もある。

副委員長： カテゴリー別の合計数が484あるが、数字としてあまり意味がないと思われる。

事務局： それだけ活動の広がりがあることを示している。重複している可能性があるため、その旨も記載する。

副委員長： P16 (1) ②について、マンション単位で自治会から脱退しているのか。個人で脱退しているのか。

事務局： マンション単位での脱退だと認識している。要は自治会と管理組合との二重構造の問題がある。

副委員長： それを明確にした方がよい。問題意識が正確に書かれている方がよい。つまり数百戸のマンションの住人が自治会から脱退しているということを書きたいのであれば、そう書いた方がよい。③に「超高齢化」という言葉があるが、この言葉は他の部分で記載している少子高齢化と違うのか。意味が理解できないことはないが、公文書となるためその辺りを整理してほしい。

P18 (3) ③でリサーチ不足が市民団体の課題ということは理解できるが、「マーケットリサーチ」という言葉は経済的な活動のように感じる。言葉として「ニーズの把握」が適当ではないか。⑤で「学生等」と記載してあるが、他の部分では「学生等との連携」など、その主体と何をするかを課題としてキーワードに掲げられているため、そこも揃えた方がよい。

委員： P3のSDGsのsの改行が気になる。

P13で全174区・自治会となっているが、174自治区・自治会とした方がよい。

P16 (1) ②で「自治会費徴収が負担となっている」という文章が突如出てきた。誰がどのような理由で負担になっているのかが分からない。

P17 (2) ③で「それぞれ」という言葉の記載が多い。「そのような機会が」の「が」に違和感がある。④「市外で学んでいるおり」という言い回しが気になる。

P17 (3) ①で「免許」の部分で「運転免許」の記載にした方がよい。

P18 (3) ⑤で関西学院大学と湊川短期大学の記載があるが、神戸医療福祉専門学校の記事をしないのか。「楽しみをもって関わっていこうと前向きにいる」の言い回しが気になる。

P19「これまでにみてきたとおり高齢化や定年延長など雇用環境の大きな変化起因する役員の担い手不足、負担の増加などによる地域活動への参加者の減少や固定化など様々な問題を抱えています。」という文章が分かりにくい。

委員： P15の表で市街地の市民センターでの活動率が高いという捉えられ方をされないか。

P16 (1) ③「待たれている」という表現が気になる。「必要である」など言い切る方がよい。

委員： P15の表が気になる。484団体という数字に納得できない。重複してない正確な数が欲しい。便宜性で違うエリアに登録していることが多いと思う。

委員： タイトルで協働のまちづくり基本指針とあるが、協働・共創のまちづくりとした方がよいのではないか。

P15の「2 協働・共創社会における地域コミュニティをめぐる諸課題」の中で課題として記載されている部分と、問題点として記載されている部分がある。P16からP18にかけては課題と問題点が一緒に記載されている。本来は問題点があつて課題があるべき。どちらか明確になるように整理して記載するべきでは。例えば、P16「(1) 自治区・自治会」「①担い手の維持・確保」の項目では、「高齢化により自治会を脱退することが多くなっている」という問題点をあげ、担い手の維持・確保を課題としている。②では自治区・自治会の大規模な脱退等という問題点を挙げている。課題とするなら課題表現に統一すべきだと思う。

委員 長： タイトルを変更する必要があるか。

事務局： 改定ということでタイトルの変更を検討する必要はないと考える。

委員 長： P7の図3が何を表したいのかわかりづらい。適切な図をお願いしたい。

P9の共創・協働の形態の部分で制度が記載されるのが気になる。他の制度はなく、この制度しかないという理解でよいか。

事務局： 目新しい制度を記載している。法改正があつたため付け加えている。他の制度がないとは言い切れない。枠組みを決めたときにこの辺りに記載してはどうかと

いう意見を基に記載させていただいた。他の委員のご意見もいただきたい。

委員 長： 文章化した際に違和感がある。P15 の表 3 については書きぶりを検討していただきたい。年々の登録団体の増減など、他の内容で記載した方がよい。P15 で「安心感が必要＝コミュニティが必要」ということだと思うが、「安心感」が何回も記載されている。修正した方がよい。

P16 (2) では「望まれている」「期待されています」という記載方法になっており、望まれたり期待されたりはニーズとして必要だと思うが、課題ではないように感じられる。

副委員 長： 市民社会に期待するという意味であれば書いてもよいが、この書きぶりでは誰かが解決してくれるのを待っているように感じる。トータルの課題をどのように解決するかを地縁組織等との連携の中で、最終的に 1 つ書けばよいと思う。指針にもう少し具体的なメニューとして記載してもよいと思う。課題に留めるというのは 1 つの案で、何を問題意識として持っているかという部分で整理するのがよいと思う。

委員： 読み手の捉え方によっては「自分達は何もしないが、行政が何かしてくれるのを望んでいる」と思われる可能性がある。主体は市民ということがぼやけてしまっている。行政が何とかしてくれるように感じてしまう。そうではなく、市民が主体ということをわかりやすく示した方がよい。

委員： 基本指針は市民にアピールしているのか。それによって書きぶりが全て変わってくると思う。主語や受け手をどうするか。そのためタイトルが非常に大事になってくると思う。それを受けて内容が展開されていくと思う。

事務局： 当然市民や地域に向けたものになる。第三者の読み本ではない。そこは念頭に置きながら表現していきたいと思う。

委員： P19 の「今後、増々、個々の地縁型団体だけでは、十分な地域力を発揮していくことは難しくなってくると考えられます。」の辺りが分かりにくい。

P30⑤4 で（普通法人に一の部分がカッコでとじられていない。また税金がかかるのか、かからないのかが分かりにくく、この文章は見直しが必要だと感じた。

委員 長： 特に税法上の部分は間違いがないように表現いただきたい。

副委員 長： 第 3 章から自治区・自治会とまちづくり協議会は地縁型組織として一緒にされているが、これまでの議論ではまちづくり協議会に今後の地域コミュニティの役割をもう一度担ってもらおうという話だったと理解している。まちづくり協議会は自治区・自治会と同じカテゴリーで課題があるが地域コミュニティの役割はもう担えないと書くのか、まちづくり協議会がこれから作っていくという前段があるのであれば、まちづくり協議会は重要なプラットフォームとして参加していくと考えていたが自分の理解が間違っているのか。まちづくり協議会にそれなりの期待があり支援をしていくと理解していたがどうか。

事務局： 自治区・自治会では加入率などの問題があり、地域全体で取り組むことを三田市ではここ 10 年進めているところである。今回ヒアリングを行った結果、まちづくり協議会の中でも高齢化や担い手不足・継承が課題になっている部分もあるが、プラットフォーム的な中間支援組織的な側面も持ち合わせているため、その面で期待したいところである。しかし自治区・自治会と共通の課題はあると捉えている。

副委員長：そこは丁寧に切り分けて記載しないといけないと思う。従来型のまちづくり協議会には限界があるが、期待している部分があるため P27 には、まちづくり協議会の新たな形としている。何かを期待するのであれば、同じまちづくり協議会という言葉を使うが、取組み内容が違うなどその整理はした方がよい。現状のまちづくり協議会には課題があるが、新しいまちづくり協議会を作ってください、という風に見える。

事務局：その通りである。ヒアリングの内容や市民からの声で、まちづくり協議会の中にも閉塞感があるという空気感を表現したかった。閉塞感を打破しないとけない段階のまちづくり協議会もある。この空気感をそのまま表現している所がある。

副委員長：ここは丁寧に記載するべき。今まで頑張って活動してきた団体は疲弊している部分もあるが、そこには期待感があり、期待感を上手くシフトしていくためにはどのような考え方があるかで地域カルテがあると思う。その書きぶりはきちんとしておくべき。「まちづくり協議会はしんどいからやめましょう」ではなく、「まちづくり協議会には期待が残っていて、負担感を小さくしながら、しないといけないことをしていきましょう」という記載にした方がよい。空気感かもしれないが、わかりやすい方がよいと思う。

事務局：皆さんが活動していくために参考になるような書き方をする。

副委員長：P19 の 2 段落目の部分は課題しか記載されていない。全員が加入する自治会が必要だが、そこはテコ入れをしにくいいため、市民の関心や問題意識、地域貢献などを束ねるものとしてまちづくり協議会が機能する。だからこそ「地縁型団体だけでは難しくなってくると考えます。」と終わってしまうのではなく、まちづくり協議会という組織の形を見直した際には、重要なプラットフォームであり、地域の個性に応じて考えていくことが大切だと思う。自治会は無くなっていくが、防犯・防災の議論がこの後にあるため記載されている。その隣もう一つやらなければならないことを書く必要がある。

委員：P25 の図の婦人会は現在活動している地域はほとんどないと思う。ここに記載することが古い形の自治会の形のように感じる。県民交流広場もなくなっている。

事務局：婦人会は現在活動を休止しているので、その辺りを反映させたい。

副委員長：P25、26 のこの 2 つ図の違いは何か。名前は違う、図も少し違うが、抜本的に何が違うのか、それぞれがどういうニーズなのか。三田市はどう理解しているのか。

事務局：国が指定地域共同活動団体制度の中で示している。緩やかな繋がりがあり、それぞれの状況を結節点としてまちづくり協議会が中に入っているのがマッチング型であり、ヒアリングの内容を図に入れていく。図 5 は 1 つのまちづくり協議会が地域内の団体をまとめている形式になっている。三田市において、こういった形式は少ないと思う。この 2 つの形式を国が示していることも含めて、こちらに記載している。

副委員長：国が示しているものは、それをそのまま参照した方がよい気がする。矢印が自治会長とまちづくり協議会役員との人間のアポイントメントを表している場合もあれば、物や野菜の動きを表している場合もあり、わかりにくい。緩やかな繋が

りについて「これは誰にお願いしていきましょう」というコーディネートをまちづくり協議会がしていくのであれば理解できるが、同じような図で全部が繋がれていると、協議会型と同じような図式と見えてしまう。

委員長： この図に関しては再検討していただきたい。P28の図も国が出している図なのであれば先に出す方がよいのでは。構成もそうだが、P24の4(1)でまちづくり協議会がいきなり出てくる。大事なのはわかるが構成のところ考えると、まちづくり協議会の新たな形を先に記載し、それを具体的に地域の活動にはめ込むとこのような形だと示すように(1)と(2)を入れ替えるのはどうか。

事務局： その通りだと思う。まちづくり協議会の新たな形に書いてあるようなことを記載したうえで、(1)と(2)を入れ替えることで検討する。

委員長： そのうえでの質問になるが、P29、30にNPO法人や一般社団法人のことを説明しているが、まちづくり協議会がそれを目指してはどうかということか。

事務局： 今のまちづくり協議会は任意の団体で集まっているため、継承していくのであれば組織となった方がよいと考える。資金の面でもより透明になることを想定し、法人化を考えていた。NPO法人であれば対象となる20分野の3つ目にまちづくりの推進を図る活動が記載されている。それを踏まえて、NPO法人化してはどうかという提案である。まちづくり協議会でなく、自治会でも構わないが法人化も見据えることができるという例である。まちづくり協議会が今大事な時期になっており、令和8年度から20のまちづくり協議会が出揃うのため、こういった選択肢もあると書かせていただいた。

委員： P24の4(1)地域の活動①まちづくり協議会、(2)まちづくり協議会の新たな形となっていることに違和感がある。まちづくり協議会のことを記載するのであれば(2)は①の部分に含まれるのでよいのでは。(1)と(2)は並列になっていないのでは。

事務局： その辺りは俯瞰して見たときに違和感がないか確認し、校正したいと思う。

委員： P24の「士気があがる」という記載は適切か。

委員長： ヒアリングで聞かれた意見をそのまま入れたのかもしれないが、そこは切ってしまうてよいと思う。可能性にかけるという部分は置いておいて、精査をお願いする。

副委員長： P24の4の(1)のタイトルを「地域の活動」とするのがよくない。「まちづくり協議会のこれからの形」にしておき、「モデルというのはこういう形でそれを参考にまちづくり協議会を組織し、活動していけば良いですよ」ということを記載しておけば、このタイトルとしては悪くない。(2)が「まちづくり協議会の新たな形」ではなく「まちづくり協議会を支える新たな協働」とか「共創の制度」とすれば、今までに加えてみんなで話し合ってみる、他のテーマ型のNPO法人やまちづくり協議会と連携を図ってみるなど、そういった活動も出てくると思う。

P21の2(1)①で自治会に防災を頑張るように書くのはよいが、特に3)に記載の言葉は正しい用語を使ってほしい。おそらく「災害時要支援者避難計画(個別避難計画)」を示していると思うが、言葉を整理してほしい。市町村の努力義務で、作成することになっているが出来ている自治体はほとんどない。自治会の機能が低下しているが、自治会の残った仕事としてはかなり大変で、3)を書いても

よいが、記載するのは市当局側に相当な覚悟が必要である。そこまで踏み込むかはご検討いただきたい。① 2) で防災マップの作成は 1) とした方がよい。防災マップを地域の皆さんの目線で作っていただくと、その地域でやらなければいけないこと、今後対策をしなければいけないこと、今までのやり方で出来ることが見えてきて、その後に 1つのコンテンツとして、空き家の調査や見守り、避難行動要支援者名簿の作成や個別避難計画の策定がある。そしてそれを踏まえて最後に訓練がある。訓練だけをしても意味がないため、そこまでを担うのであれば順番を入れ替えた方がよいと思う。2) の次に 3) 4) が来て 1) の訓練があると思う。

委員： P21 の見出しで①防災・防犯、②自主的な活動というのは釣り合いが取れない。自主的な活動を活かすのであれば、①はコミュニティ活動とかになると思う。

委員長： P24 の 4 の (1) はこれからのまちづくり協議会を支える形、(2) はそれを支えるという形とするとまちづくり協議会の話ばかりで、今まで話してきたテーマ型の団体はどうなったのかという印象がある。

(2) に関しては、マッチング型で示しているように様々な要素があり、そういうものが活動を促していくということを示していただきたい。押し付けるわけではないが、まちづくり協議会への期待が大きすぎるように感じる。三田市にボランティア活動やサークルがあることを前半に伝えているため、そのあたりとのつながりを読み取れる記載にした方がよい。

委員： 参考資料との書き方を一致させてほしい。

委員長： 全体の、ですます調の書き方を修正していただきたい。読みにくい部分があるため、様々な視点で確認いただきたい。

3章の冒頭の 2 段落目、「このような中で・・・」のところ、文章が長いため、何を言いたいかはぼけてしまい読みにくい。主体が何か、また主語が何かはわかりにくい。市民に広く読んでもらうことを目指す指針になるため、ミスリードがないよう様々な方にチェックをお願いしたい。誤字もいくつか見受けられる。なるべくしっかり見返した状態で提案していただくと助かる。

委員： P8 (3) 協働・共創の形態の部分で、「様々な主体をつなぐ中間支援の役割が重要となる」とあり、中間支援の説明があるが、初めて読んだ時に中間支援の役割がどのように重要なのか疑問に思っていた。P23 で「地域特性を踏まえた団体の中間支援組織」で中間支援の用語が出てき、役割がどう重要なのかは期待される効果のところに記載されているが、どのような役割を担っていて、その役割がどのように効果を出すのかの表現が少ないように感じる。

委員長： 「期待される効果」のところにもう少し書き加えたらどうか。P8 で具体例を入れて、このような中間支援組織の役割と少し小出しにして記載しておいてもよい。

事務局： 目指すところが同じ団体を繋いで別々の役割をしてもらい、1つの目標に向かって活動してもらい、それを繋ぐ役割が中間支援団体にあるため重要である、ということをごどこかに記載する。

委員： P31 の資料の狙いは何か。説明もなかった。意図があるのか。

事務局： 不要であれば削除するが、前回のまま引き継いでいるような形。

委員： 不要だとは言っていない。意味のあるものは載せるべき。

副委員長： ①のコーディネート機能は中間支援組織に期待することになるため、この場所

に記載するかは別として、様々な制度や担い手の間に入って調整し、繋いでいく人が必要だというこの文章は残すべき。このページでない違う場所に記載してもよいかと思う。

事務局：平成27年に作成した際には、ここにあると落ち着いたかと思うが、今回構成が変わっているため適切な場所に記載したいと思う。

委員長：ご意見を踏まえて修正をお願いします。地域活動の写真を載せるなど、読みやすくなるように工夫してみてもどうか。文字ばかりで10回ほど読まないで理解できない。市民は10回も読んでくれないと思う。「ちょっと読んでみようかな」、「三田市はまちづくりをどんな風に考えているのかな」と手に取っていただきやすい印象を与えるということも必要。そういった素材があれば検討していただきたい。

副委員長：図のタイトルは下で、表のタイトルは上にしていただきたい。

委員：字体を工夫してはどうか。見やすさが変わると思う。字の大きさや間隔なども。

事務局：たくさんの方に見ていただけるように、親しみやすさを入れながら、読みやすいものにしていきたいと思う。

4 その他

(1) 次回の日程について

委員長：10月24日(金)18時00分からで問題ないか。

委員：了。

事務局：場所は調整し、連絡する。